

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	大國 康夫	法人・ 事業所 の特徴	協同福祉会が掲げる「10の基本ケア」を考え方の柱とし、生活リハビリと落ち着いた過ごしやすい環境づくりを提供することで、状態が変わっても住み慣れた地域・在宅で生活し続ける事を支援しています。
事業所名	あすならホーム山の辺 多機能型ケアホーム	管理者	中井 達雄		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	3人	人	10人	人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	小規模多機能の毎週行っている会議の時間を調整し、いきいき100歳体操に来ている地域住民と交流する。サロン活動も行っていく	いきいき100歳体操の実施等地域の方が集まれる場としての役割は担えた。サロン活動の開催は出来なかった。	地域の方が集える場として機能しているが、現場職員が参加者と交流する機会がない	いきいき100歳体操に来ていただいている時は出来る限り職員も参加していく。地域の方との交流の場としてサロン活動をしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	花壇に花や桜の木を植え明るい感じの雰囲気を作りたい。	施設前に畑を作り、草花を植えたりしたが、常に気かけ植え替えなどは出来なかった。桜の木は植えることが出来た。	花見などに行けない利用者にも季節を感じて欲しい	季節の花などの種をまいているが育たず 桜も育ちが遅いように思うので 利用者様と検討したい。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方を巻き込んだお出かけ企画などたて実行していく。地域に向けての学習会をしていく。	地域向けの学習会は年間6回行なえた。地域の方々からの相談や紹介などが増えてきた。地域の方たちのお出かけが出来ている。	施設前を通りかかる方たちとの立ち話などが増え 施設の職員だと覚えてくれている。	1人でも多くの職員と地域の方との交流を増やし 気軽に来ていただけるような環境を作る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ご近所の方とのつながりで、関係性を築き包括様と協力し地域の方を支える取り組みをします	困っている方などの連絡が入ると 地域に出向き ホームで関わられることをさせていただけます。独居の方が利用につながり元気に過ごされています。	地域の催しやイベントなどのに利用者様との参加ができてにくいので 予定を決め地域に出ていきたい。	地域のイベントや催し情報を入手し利用者様と参加していきたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を実施し、地域の困り事を聞き取っていく。ケアの取り組みの事例などを報告させていただきます。	新型コロナウイルス終息後 運営推進会議を開催しています。 地域の方とのパイプを作っていきたいです。	北部地域包括との話の中で地域の方にも来ていただけるように地域へのお知らせを行なっていく。	地域への日取りなどを報告が遅くなるので出来るだけ早くお知らせできるようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	BCPの練り直しから有事の際にも地域の方が安心できる事業所になるよう、新入職員を含めた避難訓練を行なう	火災避難訓練、災害避難訓練を実施した。地域の方に参加して頂く事は出来ない。出来るだけ職員全員参加で実施していた。	コロナの事もあり地域の方との交流が薄く来ていただけなかった。	火災避難訓練・災害避難訓練の実施に向けて地域の方にも発信していく。